

順位	氏名（議席）	発言の要旨
16	藤田 哲哉（27）	<p>1. 最新のシミュレーションプログラムを活用した防犯講座について</p> <p>近年、SNS等を通じて若者が意図せず犯罪に巻き込まれる闇バイトが深刻な社会問題となっている。その対策として、自分なら大丈夫という油断を打ち破るための防犯シミュレーションゲームが注目されている。これは、慶應義塾大学の現役学生が中心となって創業したスタートアップ企業が開発した防犯シミュレーションプログラムである。座学よりも、自分がその立場だったらどう動くかを疑似体験することで、危機回避能力を高める効果があると、導入した多くの自治体から高い評価を得ている。</p> <p>富士市でも闇バイトに関する対策として、富士市立高校で静岡大学教育学部教育実践学専修の塩田真吾准教授の研究チームによる講座を実施している点は、大変評価するところである。しかしながら、学校内での教育には、学習指導要領の消化や教員の働き方改革といった制約があり、実施時間や対象範囲に限界があるのも事実である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 闇バイト対策は、単なる教育の範疇を超え、市民の生命と安全を守る防犯・治安の重要課題である。市長部局においても主体性を持って取り組むべきと考えるが、市長の認識を伺う。</p> <p>(2) 最新のシミュレーションプログラムを活用し、中高生やその保護者を対象とした公募型の体験講座を実施する考えはないか伺う。</p> <p>(3) 市長部局が予算と場を確保し、教育委員会が学校を通じて周知協力を行うといった部局横断的な連携により、現場に負担をかけない実効性のある防犯体制を構築すべきと考えるが、今後の展望を伺う。</p> <p>2. 公共施設における国旗、市旗及び校旗の取扱いについて</p> <p>平成25年2月定例会において、国旗の掲揚について一般質問を行った。当時の市長は、「地区まちづくりセンターなどのように、国及び県から協力依頼があったときや式典等を開催するときなど限定的に国旗を掲揚している施設もあり、市内の公共施設全体としては、その取扱いは統一されておりません。」といった答弁や、「しかしながら、設備等の条件が整っている施設につきましては、県のマニュアルを参考としつつ、施設ごとに国旗の掲揚に係る適切な取扱いについて検討を進めてまいりたいと考えております。」との答弁があった。また、当時の教育長は、「国旗等の取扱いにつきましては、教職員や児童生徒に対して、日本国旗・県旗等取扱いマニュアルに準じた国旗等の正しい取扱いについて指導してまいりたいと思います。今後も、国旗の意義を理解し、敬意を持って正しい取扱いができる児童生徒を育ててまいりたいと思います。」との答弁があった。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 行政の継続性と実行責任について</p> <p>① 答弁から10年以上が経過したが、この間、具体的にどの施設で掲揚が開始され、どの施設が条件不備として見送られたのか、その調査結果について伺う。</p> <p>② 検討とは、実施に向けたプロセスと考えます。現在も地区まちづくりセンター等で掲揚が常態化していないのは、検討の結果、掲揚しないと結論づけたのか、それとも、単なる放置なのか伺う。</p> <p>③ 施設ごとの裁量に任せた結果、現状のように対応がバラバラになっている。今こそ富士市公共施設国旗掲揚指針のような全庁統一の明確な</p>

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨
16	藤田 哲哉（27）	<p>ールを策定すべきと思うが、今後の展開を伺う。</p> <p>(2) 指導の実効性と教育の質について</p> <p>① 現在、市内小中学校において毎日掲揚を行っている学校は何校か。また、掲揚を行っていない学校があるとするならば、その理由を教育委員会としてどう把握しているのか伺う。</p> <p>② 当時の教育長が掲げた「国を愛する心」や「国際社会に生きる日本人としての自覚」を養う教育は、掲揚という児童生徒の自発的な実践も含まれると考えるが、現状の掲揚状況で、その教育目標が達成できているとお考えか伺う。</p>